

受講番号 19078 学校名 北陵中学校 氏名 西内 友人

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年特別支援学級 生徒数 1名
科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 教育出版 ONE WORLD English Course 3

クラスの様子・特徴

病弱・身体虚弱の特別支援学級である。週2時間の交流学級での学習では、仲間とのコミュニケーションや学習活動にも遠慮してしまう面も見られるが、週1時間の本学級の授業では積極的に発表するなど、活動にも前向きに取り組むことができる。

問題の確定

「わかった」「できた」という実感や達成感を持つ授業、基礎的な英語力を身につけるために「読むこと」の能力を高めることが必要

予備調査

A 授業の観察

特別支援学級の中ではマンツーマンのため、新出単語の発音練習も声が出やすく、学習活動も意欲的に取り組む。理解については、繰り返しの練習に時間をかける必要がある。また、定着のためには家庭学習も不可欠である。習慣化を図っていく必要がある。

B 生徒による授業評価

アンケートで、授業の中で難しいと感じるのは、「聞くこと」「読むこと」と答え、楽しいと感じるのは、「読むこと」「書くこと」と答えている。また、カウンセリングも行い、「読むこと」は難しいが、読むことができると、楽しくなってきたと答えた。

C 学力データ

学年の定期テストの観点別到達度を見ると、中間テストでは、「聞くこと」「読むこと」の問題が、期末テストでは、「書くこと」の問題がよくできていたが、他の分野での定着が課題である。小テストでは、自己目標を達成できるときもある。

リサーチ・クエスト

「わかった」「できた」という実感や達成感を持ち、自信を持って授業に参加でき、基礎的な英語力を身につけるためにどのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒
英文が読めるように個別学習時に読み方をチェックしてから丁寧な音読練習を行い、教科書内容の概要把握をすることで、交流学級でも自信をもって学習に取り組むことができるだろう。

実践1

⇒
家庭学習で調べてきた新出単語の意味を確認した。新出単語や教科書本文の発音を聞き、どのように聞こえたかメモを取りながら確認し、繰り返し発音練習を行った。後半はパワーポイントを使っての発音練習に取り組み、単語をイメージするイラストや写真も使用し、カタカナ発音も時間差で少し表示した。教科書内容の概要把握では、和訳のプリントから一文ごとに内容をイメージしながら音読練習を行った。

検証1

⇒
自信につなげていくための個別学習に取り組んだが、学習意欲を高めるための工夫として、パワーポイント等、視聴覚機器を活用したところ、学習意欲を高めることにつながり、時間差でカタカナ発音の確認もすることで、他の自信のない生徒にも好評であった。定着も高まってきたのではないかと考えた。

仮説2

⇒
授業の導入時に既習文型を何度も繰り返して音読練習を行う。単語や文の内容を理解することから基礎的な英語力を身につけ、英語がわかるという実感をもつことができるだろう。

実践2

⇒
授業の導入時に復習の時間を設定し、限られた時間設定の中で既習文型の音読練習を行った。また、＜日本語→英語＞にできるようにペア活動を行う。それぞれ自己到達目標を設定し、自己の伸びを確認できるようにした。ペアやグループで仲間とかかわる活動や音読練習を通じて意欲の向上をねらった。また、後半では文の数を限定して音読練習を行い、その後筆写練習を行った。

検証2

⇒
既習文型の音読練習では、内容を理解することから基礎的な英語力を身につけ、英語がわかるという実感をもつことができると考えていたが、時間内での学習文型の量が多すぎて、定着に至っていないこともあった。後半は文の数を時間内に2文と限定し、音読筆写をすることで、定着度は上がってきた。仲間とかかわる活動や自己到達目標を設定することで、意欲がより向上した。

仮説3

⇒
授業で学習した英文を音読する課題と筆写する課題を継続的に与え、達成可能な問題の小テストを実施する。それに合格できれば達成感を感じ、次回に対しても意欲的に学習に取り組むことができるだろう。

実践3

⇒
音読と筆写の課題については毎週のノート提出と回数確認を行った。小テストは、毎週学習した内容から10文選び、ディクテーションの形式で行った。ブランク内に聞き取った単語を書き、6問以上正解すれば合格としていたが、後半は、小テストの形式を変更し、ディクテーション1問と新出単語の和訳・英訳、重要表現の和文英訳の空所補充で行った。自己合格目標を設定した。

検証3

⇒
達成可能な問題の小テストを実施してきたが、目標の達成度に届かず、自信をなくしていたこともあった。後半では、授業の定着を確認するテスト内容に変更して正答率が上がったことから、わかったという実感を持つことができ、意欲的に学習に取り組むことができた。

研究の成果

生徒のアンケートから、意欲面の向上が課題であると考え、苦手意識を払拭できるよう取り組んだことにより、授業内では少しずつ意欲の向上が見られた。単語や文を繰り返し読む・書く活動を続ける中で、「わかる」「できる」という自信が生まれてきていた。パートごと小テストの結果に一喜一憂しながらも、「やっぱ得意な」という意識から「やれば結果に出るときもある」という意識になってきている。データとしては、定期テストの結果にも少しずつ成果が表われてきている。領域別では、「聞く」「読む」の正答率が伸びた。

今後の授業改善の課題

生徒が「わかった」という実感を持てる活動として、音読と筆写の指導や、2学期末テストの「言語」での伸びを維持し、達成感を持たせることができるように小テストを継続して、基礎学力の定着につなげていきたい。また、仲間とかかわりあいのある活動として、スピーチ活動やディベート学習の準備をALTと協力して進め、入試に向けての総復習や過去問題にも取り組むことにしている。家庭学習の定着も指導したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-862-0280